

# 「愛知県美術館所蔵作品によるサテライト展示」

## 藤井達吉 《梅百題》

このたび当館では常設展示「23年度-V期」及び「23年度-VI期」の期間を利用して、愛知県美術館所蔵の藤井作品《梅百題》を展示し、その全容を公開することとなりました。昭和37（1962）年制作のこの《梅百題》は、藤井の最も好んだ画題のひとつである「梅」をさまざまな技法を駆使して描いた102幅の掛け軸からなる、晩年の代表作のひとつです。本特集展示では下記の6期に分けてこの102幅を順次展示し、藤井達吉による多彩な梅の世界を、皆様にお楽しみいただきます。

**1期：2011年11月26日（土）～2011年12月18日（日）**

展示＝「梅百題につきて」「梅百題1～16」

**2期：2011年12月20日（火）～2012年1月9日（月・祝）**

展示＝「梅百題17～33」

**3期：2012年1月11日（水）～2012年1月29日（日）**

展示＝「梅百題34～50」

**4期：2012年1月31日（火）～2012年2月19日（日）**

展示＝「梅百題51～67」

**5期：2012年2月21日（火）～2012年3月11日（日）**

展示＝「梅百題68～84」

**6期：2012年3月13日（火）～2012年4月1日（日）**

展示＝「梅百題85～100」「梅百題あとがき」

最後になりましたが、「愛知県美術館所蔵作品によるサテライト展示」の試行企画として、この《梅百題》を特集展示するにあたり、所蔵館である愛知県美術館には多大なご協力をいただきました。厚く御礼を申し上げます。

平成23年11月

碧南市藤井達吉現代美術館

## 藤井達吉について

藤井達吉(1881～1964)は、明治14(1881)年に愛知県碧海郡(現・碧南市)に生まれ、棚尾小学校を卒業後、様々な職業を経たのち、24歳の時に美術家を志して上京しました。その後、市内道場山にも一時帰住しましたが、愛知県内においては小原村で和紙工芸を指導し、岡崎市内でも創作活動をするなど、生涯を芸術の探究にささげた作家でした。その創作活動の領域は、七宝、金工、木工、染織、漆工、陶器といった工芸全般にわたり、さらにデザイン、絵画などの幅広い分野に及ぶものです。

特に工芸について、大正時代の藤井は、当時の工芸家たちが狭い専門分野に閉じこもり、その中で精緻な技巧を見せようとする、旧態依然とした技術偏重の行き方に疑問を感じ、生活との結びつきを大切にし、その中で、工芸家の創作性を発揮すべきことを提唱し、自らも日本の工芸を芸術として確立させようとした作品を発表しました。藤井の活動は、後進の工芸家たちに少なからぬ影響を与え、大正から昭和初期にかけての工芸の世界に、大きな展開をもたらしたのです。

一方、50歳を過ぎてからの藤井は、「昔日の素人に帰る」と宣言し、中央の美術界との関係を絶ちました。そして、しばしば「孤高の芸術家」と呼ばれるような独自の創作活動を展開し、晩年の「継色紙」に代表されるような造形の世界に到達しました。また、郷土の美術工芸の振興に力を注ぎ、小原の和紙工芸作家や瀬戸の陶芸作家などの育成などがよく知られています。昭和39(1964)年、83歳で岡崎市にて逝去しました。